安心してタブレットを活用するために

三島版 GIGA スクール構想の実施にあたり、今後、児童・生徒が安全・安心にタブレットを活用できるように児童・生徒の皆さんと保護者の皆さんへアンケートを行いました。ここでは、集まった感想や意見などの一部を紹介します。

児童・生徒からの感想

- 自主勉強の時にインターネットでいろいろ調べたいです。
- タブレットで授業や宿題をすると楽しいです。
- 自由に絵を描いたりとＰＣにはない機能があり楽しいです。
- チャット機能を使って、気軽に質問ができるようになりました。

保護者の皆さんからのご意見・要望

- 「ワード」などのソフトを子どものうちに使えるようになってほしいです。
- 情報を集め、上手に活用することを学んでほしいです。
- 在宅授業や通学が難しい生徒への対応など、柔軟な学習スタイルの実現を期待します。
- 適切な使用方法に加えて、学校でネットや SNS の危険性を教えてほしいです。

家庭でのタブレット端末使用について

タブレット端末は、最初は学校で保管することになりますが、順次、持ち帰りを進めていく予定です。安心して家庭でお使いいただけるよう、全ての端末で有害サイトのブロックや利用できるアプリの制限などのフィルタリング設定を行います。また、学校では情報モラル教育を進めることで、児童・生徒が自主的に利用をコントロールできるようになることを目指していきます。

タブレット使用ルール（一部抜粋）

- 写真を撮ったり、音や映像を録音・録画したりする時は、必ず相手の許可（肖像権など）をもらう
- 自分や他人の個人情報（名前や住所・電話番号など）をインターネット上に公開しない
- 相手を傷つけたり、嫌な思いをさせたりするような書き込みは絶対にしないようにする
- インターネットで、不適切なサイトを見たり、投稿を行ったりしないようにする
- 家に Wi-Fi 環境がある場合は、Wi-Fi に接続して使用する

特別な支援が必要な児童・生徒へのサポート

特別な支援が必要な児童・生徒も、タブレット端末を活用することで、従来よりも学習の理解度を高めることが期待されます。一人一人に寄り添い、児童・生徒が有効に活用できるようサポートしていきます。

■文章の意味の把握や文を読むのが苦手な子へ

絵や写真、動画やアニメーションなどの使用や、文章の自動反転表示機能などを活用し、内容の理解と読字をサポートします。

■聞こえにくい子へ

タブレットで視覚的な情報を十分に与えることで、自分が必要な情報を活用できるようにサポートします。

■集中したりじっとしたりすることが苦手な子へ

タブレットで図や言葉などを視覚的に見せることで、児童・生徒が興味を持って、授業に取り組むことができるようにします。

■聞き取り・書き取りが苦手な子へ

タブレットでは、音声の録音や、カメラ機能を使った板書の撮影により、記録が取れるため、一人一人に合った学習方法で授業に参加できます。

これからの教育を考える

子どもたちがコンピュータを持って学習をする「GIGA スクール構想」がはじまります

文：佐藤和紀（信州大学教育学部・助教）

GIGAスクール構想とは、政府が2019年12月に打ち出した政策で、すべての児童生徒に一人一台のコンピュータと学校に超高速なネットワークを整備するものです。約4610億円という莫大な補正予算で整備されます。私は三島市教育委員会と協力して、GIGAスクール構想を進めていますが、子どもたちの未来のための税金を決して無駄にしないために、万全な計画が進められ、学校の先生方は研修を受け、懸命に準備を進めています。

日本はデジタル化後進国

ところで、日本で生活をしていると、ほとんどの人がスマートフォンを持ち、それが生活に溶け込み、デジタル化が進んでいるように見えます。しかし、海外と比較するとデジタル化後進国で、先進国の中ではもっとも進んでいません。海外では子どもたちが一人ずつコンピュータを使って授業をすることは「ごく当たり前」で日常です。この影響は、OECDによる子どもたちの学力の国際比較にも影響が出ています。特に、コンピュータを使って情報を読解する力が低下しています。OECDは経済協力開発機構ですから、子どもたちの今・未来の仕事で必要な力を測定しています。つまり、将来の日本の地域経済の姿を示していると言っても過言ではありません。

コロナ禍で一気にテレワークが進みました。インターネット上で情報やファイルがリアルタイムで共有され、仕事が行われています。今後は子どもたちにもごく普通に求められる力となります。そのために、全国学力・学習状況調査（通称：学力調査）や大学共通入学テストも、コンピュータを使った方法（CBT）に代わります。教科書も紙からデジタルへと変えていこうと議論されています。

情報社会を生き抜くために

情報社会と言われ始め30年が経過しますが、これまで子どもたちに情報社会の練習と失敗をさせてこず、情報社会の本番で失敗を重ねてきました。そのことが大人の懸念を大きくしています。健康面や「本当に勉強に使うのだろうか」という懸念もあることでしょう。使ってこなかったコンピュータですから、間違いなく多くの失敗をします。コンピュータは道具ですから、コンピュータを使った学習への態度や姿勢は「これまでが問われる」ことにもなります。しかし、学校は社会へ出るための準備の場所であり、失敗して学ぶ場所という認識は今までもこれからも変わりありません。学校はもちろん家庭や社会全体で、子どもたちの力を信じ、見守る姿勢で、この取り組みを応援していただけますと幸いです。

佐藤 和紀
1980年長野県出身、信州大学教育学部・助教、博士（情報科学・東北大学）、東京都公立小学校教諭、常葉大学教育学部専任講師などを経て現職。文部科学省ＩＣＴ活用教育アドバイザーなどを歴任。

教育長 メッセージ　～GIGA スクール構想に期待すること～

西島 玉枝
三島市教育長

これから子どもたちが生きていく社会は、人工知能などの新たな技術により、その在り方が大きく変化する「Society5.0」の時代を迎えます。このような社会で活躍していくためには、学校教育においても、新たなＩＣＴ環境や先端技術を最大限に活用し、適切に使う力を育んでいく必要があります。また、一人一人が持続可能な社会の担い手として、社会の変化に柔軟に対応し、自らの力でよりよい社会を創り出すための「生きる力」を身に付けていくことも重要です。そのため、子どもたちには、今回導入するタブレット端末を活用し、自らの疑問点を追究したり、友達とのさまざまな議論により自己の考えを広げたりしながら「主体的・対話的で深い学び」の充実につなげて欲しいと考えております。

教育委員会といたしましては、引き続き、子どもたちの多様性を認め、可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、ＧＩＧＡスクール構想を推進してまいりますので、市民の皆様にも、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。